

時空のトンネル  
辿りついたセックス  
スの地 男女乱交  
酒池肉林の場

4人のカップル二人組が晴れた空の下  
歩いていた。

空は水色。

女子はミニスカートを穿いている。

一人はホットパンツ。ほんの少しだけ丈が長い。

太ももがはっきりと見えている。

ムッチムチ。

照り付ける太陽。

こんがり焼けるアスファルト。

道路の側には草原（くさはら）が広がっている……。

ふと……カップルたちは何かに躓（つまづく）くような感覚になった。

「あっ！！ あ————っ  
っ！！！！！」

落ちたのは広い地平。

見渡すと・・・広々と視界が広がる。

地平線がはっきり見える。

遠くに背丈の低い山が見える。

デコボコ土の地面に・・・・・・・・薄い赤い  
マットが敷き詰められている場所が見  
えた。

そしてその周囲も土が平らになっていてセックスがしやすい。

比較的近いその間にも草むらがある。

カップル二人組はゆっくりと歩を進めてそこへ向かった。

ふと横を見ると、妙にぼやけた不思議なトンネルが近くにあった。

そこからゾロゾロと男女たちが出てきた・・・・・・・・。

10数名。

この地平へ来たのは自分たちだけでは

ないようだった。

トンネルから出てきた女の一人はスカートをずらしてお尻を丸出しにした。

「なんでこんなところ来ちゃったんだろ  
うね……？」

そんな愚痴をこぼしながら……トンネルから出てきた男女たちは次々と衣

服を脱ぎ始めた。

マットはとても広い。

どこまでも歩き回れるような広さである。

まるでプールのよう。

あっという間に全員が裸になった。

「すっぽんぽんだよね、俺たち！！！！」

そう言いながらはしゃぎまわっている。

女子たちはお尻と乳房を揺らしながら、不思議な地平に降り立ったという事実はひとまずそっちのけという感じで素っ裸になった。

ひたすら開放的な心持のもと・・・

トンネルから繋がっていたその地は

とっても広いセックスの場所。

トンネルの向こう側はせわしない街、部屋の中。あるいは自然の山の片隅である。

うごめく街で裸を求める男女たちが

突然現れた時空のトンネルからここへ  
やって来る、

そんな現象が生じたのだ。

オカルト的な・・・・・・・・。

杖をついた魔術師が・・・・・・・・

突然暇を持て余した人間たちの玄関へ  
やってきて杖をグルグルと回し不思議  
な時空のトンネルを作る。

・・・・・・・・・・もちろん分男女たちは  
そのことを知らないまま。

そんな現象が生じたのだ。

「な、なんなの！？これ・・・・・・・・」

男女たちはそこを怪訝そうな顔をしつ  
つもそのトンネルをくぐり

この地平へたどり着く。

不思議と体がそっちへ動いたのだ。

足が動く。太ももが動く。

エッチな衝動が未知の地へと男女を駆り立てる・・・・・・・・。

疼く股間・・・・・・・・。

移動するときも心はときめいている。

しかし何故か・ ・ ・ ・ ・。

辿りついて即、衣服を脱ぐのである。

おへそを丸出しにして・・・・・・・・。

乳房がユサユサと揺れている。

辿りついた地平で出会った男女は

即、男が女のおっぱいに吸いつく……。

家などは近くにないが、

自然がいっぱい広がっている。

どこまでも広い地。

遠くの山の向こうに小さな工場が見える。

煙が出つづけるその工場ではひたすら・・・

下着が製造されている。

下着と一緒にエッチな玩具なども製造されている。

あまり上の世界にはない

とてもエッチな玩具である。

低い山と地平。そして工場。

あとは広がる地平線ばかり。

敷かれたマットの上で裸になった男女  
たちは・・・・・・・・

パカッとパイパンの股を広げた。

それに食らいつく男子たちは無我夢中

である。

「んくちゅっ・・・・・・・・ぶぶちゅうっ・・・・・・・・  
ちゅぶぶぶぱぱぱあっつ・・・・・・・・」

股からは洪水のような愛液が・・・・・・・・。

「美味しいよ・・・・・・・・ずちゅぶぶぱぱぱ  
あっ・・・・・・・・」

本能のままに・・・・舐めずする。

実は・・・・・・・・ここへ来るまでの時  
空のトンネルが生じたメンバーにはあ  
る共通点があった・・・・・・・・。

エッチなことに興味津々、そして温泉へ

行くことが大好き・・・・ということ。

どういうわけか女子は乳房を成長させ

下着にこだわる。

そのために遠くはるばる電車で下着店

へ行くこともある。

そして温泉へ行った女子たちは・・・

お尻をフリフリしてキャピキャピと脇  
を上げてはしゃぎまわる。

脇がツルツルの妖精のように…………。

大きな交差点がある三階建てのカラオケなどもある大きな施設の温泉である。

時は過去へと遡る…………。

・・・・・・・・水色の空にたくさんの千切れ雲が浮かんでいる午前のこと……。

女子たちはこの日も街中の温泉ではしゃいでいた。

温泉でエッチなことばかりを考えてい

る女子男子たちに、時空のトンネルは現れるのである。

温泉から帰った男女たちに

突然、黒くぼやけたトンネルが勉強中の机の横に・・・・・・・・。

「ここは一体何の道なんだろう??」

首を傾げ、それでもちよっぴり勇気を出して女子男子たちはそこの道へ突入した。

中は薄暗い明かり。しかしぼやけた時空のタイムスリップのようであった。

おっこちたふわふわ雑草の山の上。

何かの冒険が始まる・・・・・・・・

果てしない性欲の冒険が・・・・。

そんな気がして . . . .

実はそこは楽しい安らぎの場所であった。

. . . . .

地平の土の向こうから

一人のバニーガールのような赤い水着を着た髪の長い女性が一人腰をくねらせてセクシーな歩き方でこちらに歩いてきた。

腕に薄茶色い丸いトレイを抱えている。

遠くにそびえる山はとっても静かである。

(体験版は以上になります。ご読了あり

がとうございました)